

# J-CEF NEWS

no. 5

2014 AUTUMN

## リレーエッセイ

○ 集合は、議員面会所で

／宮崎一徳（参議院事務局）

## 実践事例紹介

○ 地域と協働する学校による地域をつくる教育

／岩本悠（島根県立隠岐島前高等学校 高校魅力化コーディネーター）

## 書評

民主主義を学習する—教育・生涯学習・シティズンシップ

○ （ガート・ピースタ 著、上野正道・藤井佳世・中村(新井)清二 訳）

地域を変える高校生たち—市民とのフォーラムからボランティア、まちづくりへ

（宮下与兵衛 編、宮下与兵衛・栗又衛・波岡知朗 著）

／古田雄一（筑波大学大学院博士後期課程）

## 特集

○ 「シティズンシップ教育を進める上で何を大切にすべきか？」

／阿部潔（関西学院大学社会学部教授）

## セミナーレポート

○ J-CEF クロストーク Vol.3 「若者のボランティア活動と政治参画の関連を考える」

／西尾雄志（日本財団学生ボランティアセンターセンター長／早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター客員准教授）

／福島宏希（United Youth 代表）

／伊藤章（NPO 法人国際ボランティア学生協会理事）



## 集合は、議員面会所で

参議院事務局  
宮崎一徳

「市民立法」という言葉が広く知られるようになった「被災者生活再建支援法」(平成10年法律第66号)の成立に、委員会スタッフとして立ち合った経験等から、私は、議員や役人以外の「市民」からの政策提言の重要性を強く認識するようになりました。その後も部分的かもしれませんがそうした提言が法律に帰結する事例にいくつか接していることから、それらの事例を研究者の立場で整理してみたいという気持ちを次第に持つようになりました。

そうした私の気持ちを後押ししたのが、平成24年7月に参議院主催で行われた子ども国会「復興から未来へ」での出会いでした。その一つは、国会議員との懇談のために来てもらった過去2回(平成9年、同12年)の子ども国会議員経験者の代表との交流です。成人した彼らのうちには、仕事のほかに様々な社会的活動をしている者も多く、大きな刺激を受けました。もう一つは、当時、文部科学省職員として子ども国会に協力して下さった、

模擬選挙推進ネットワークの林大介さんとの出会いです。林さんのシティズンシップ教育に関する様々な活動に接して、市民の政策提言の基礎となるものとして、更に勉強したくなりました。これらにより、私は社会人として大学院に入ることを決めました。そして平成25年3月のJ-CEF総会にたどり着きます。シティズンシップ教育のある子ども国会が、私をJ-CEFに導いたのです。

「市民立法」的な活動による法律成立は、「多くの団体や個人の連携」の中に「現場に詳しい者から行政や法律の専門知識を持つ者、さらには政治家、マスメディアとの人的つながりを通してこれらに対する働きかけの経験を持つ者など、多様なノウハウがあったこと」等が特色とされます(加藤秀樹「立法システムとNPO、シンクタンク」『立法システムの再構築・立法学の新フロンティア2』ナカニシヤ出版、2014年)。社会のニーズが多様化し、それらに財政も含め行政が充

分に対応できなくなっている今日、多元的な政策提言が求められているのは事実です。NPOの活動が盛んになっても政策提言が弱いと言われていますが、ここ15年で、ネット上の環境は大いに変わり、連絡や意見交換等も含め、情報のやりとりは格段に進歩しています。シティズンシップ教育の充実により、個々の市民の意識・能力が向上し、何か課題が認識された時に、有用なノウハウを持つ様々な団体や個人の連携がなされ、速やかに課題の解決のための的確な政策提言が作られ、「議員面会所」に集まった人たちにより議員に持ち込まれることが日常的になる日が来るのは遠くないはずで、そのために必要なのは何と何と何なのか。一市民としてJ-CEFの活動に参加しながら、探っていきたいというのが私の思いです。皆さんが国会に来る時は、御案内します。集合は、議員面会所で。宮崎一徳(kazunori\_miyazaki@hotmail.com)